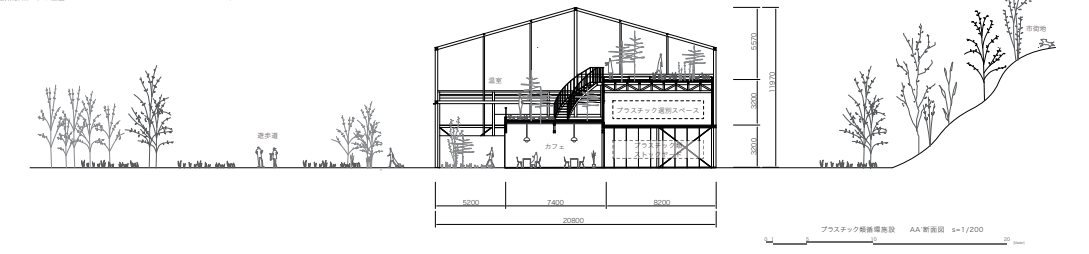
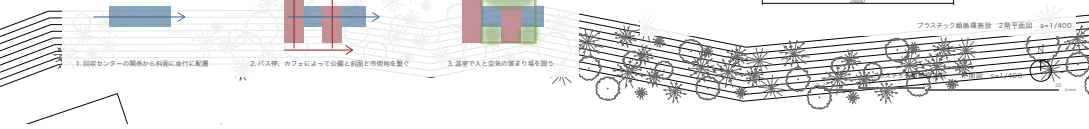
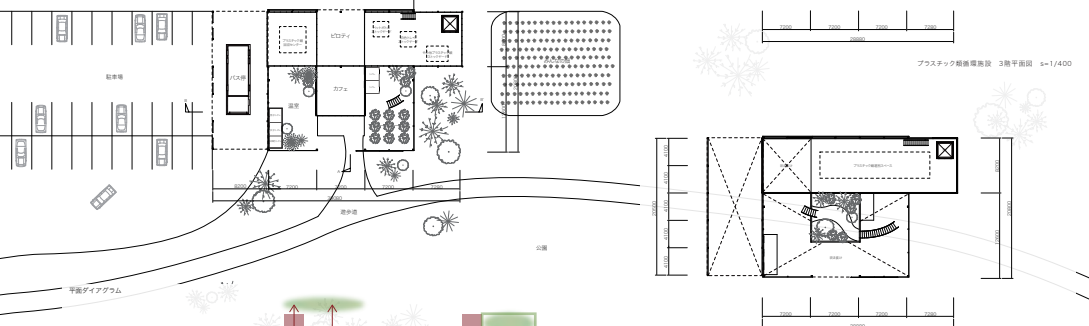




公園全体のなかでも最も利用の少ないエリアに、プラスチックの循環施設とその機能の稼働を利用したブルーベリーを栽培する温室とカフェを設計した。外壁や温室はプラスチックの再生ポリカを想定し、住宅地と公園の結節点となり、利用が少ない公園へ人を呼び込むことになる。また、公園内のランドスケープと連携するよう建築計画をした。

コンクリート躯体を高いみんらの柱で支える形で、機能の稼働で温室やカフェの天井を稼働し、コブアミで屋根をまみ。また、遊歩道を設置することで、住宅地と公園のランドスケープを繋ぐ。



5つの施設のなかで唯一公園と隣接していないが、都市社会や自然の近くであり、循環拠点のD点として必要であると考えました。紙や布は、分別し処理する前提までの工程なので大きな機能は必要なく、紙や布類施設の近く一次ストックする感覚である。本や服などは貯めるのではなく工務に作り交換ができる施設を計画した。

